
鐘

山羊ノ宮

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

鐘

【Zマーク】

Z2337Z

【作者名】

山羊ノ宮

【あらすじ】

あの時計塔の鐘を鳴らしてはいけない。

十一時の鐘が鳴れば、魔法が解けてしまう。

少女は時計塔の中の階段を急いで上がつていた。

あの時計塔の鐘を鳴らせてはいけない。

十二時の鐘が鳴れば、魔法が解けてしまう。

少女は時計塔の中の階段を急いで上がっていた。

その後を屈強な軍人が後を追う。

鐘を鳴らせてはいけない。

スパイの情報によるとあの鐘の音と共にこの国に侵攻すると言つ事だ。

恐らく先行する少女もスパイ。

そう思い、軍人は必死に時計塔の階段を駆け上る。

その後を娼婦が追つていた。

鐘を鳴らせてはいけない。

あの鐘と共に愛する人は死刑に処される。

多くの罪を重ねた。

恐らく怨む者も多いだろう。

前を行くあの男もきっとそう。

けれど、愛した男に少しでも生きて欲しい。

そう思い、女は必死に時計塔の階段を駆け上る。

その後を学生が追つていた。

鐘を鳴らせてはいけない。

あの鐘と共にずっと片思いだったあの人気が列車に乗つて遠くへ行ってしまう。

もしあの鐘がならなければ、あの人はまだここに留まってくれるのではないか？

そんな妄想に抱かれ、学生は必死に時計塔の階段を駆け上る。

その後を・・・

リンゴーン、リンゴーン、リンゴーン・・・

莊厳な鐘の音。

ああ、世界が終る。

そう時計塔を駆けのぼる者歟が思つた。

「良かつた。今日も良い音だ」

そして、鐘を作つたその老人は満足そうに笑む。

その鐘の音と共に魔法は消え、何かは始まり、何かは終わる。

例え世界が終ろうとも明日が来る。

その喜びを、老人はかみしめていた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2337n/>

鐘

2010年10月10日22時22分発行